

日本語教育部門

一橋大学における日本語教育は大きく5つに分類することができる。第一は、文部科学省国費研究留学生に対する日本語の予備教育を中心とする「日本語研修コース」である。第二は「教養教育科目としての日本語科目」、第三は「学部教育科目としての日本語科目」、第四は「大学院科目」、そして、第五は「春季・秋季日本語コース」である。第一と第五を除いてこれらの日本語のコースはすべて単位が認定される科目となっており、本学の日本語教育における一つの特徴となっている。また、後掲の表にあるように、日本語担当教官が各学部や研究科と連携をとりながら、センターや学部の枠にとらわれず、講義を担当していることもその特徴として挙げることができる。

1. 日本語研修コース

〈コースの概要〉

このコースは、文部科学省国費研究留学生のうちで日本語の予備教育を必要とする者（「日本語研修生」と呼ばれる）を主な対象とする。渡日時以前に日本語学習歴のない者から初中級レベルにある留学生がこのコースを受講し、半年間の日本語学習の後、本学の研究生、あるいは、大学院生となる。日本語研修生以外に、大学推薦の国費留学生、交流協定大学からの派遣学生、あるいは私費の留学生もこのコースに参加することもある。

このコースの日本語学習の目標は、学内外の日常生活に必要な日本語運用能力を獲得すること、および、それぞれ学生の専門の勉学・研究活動に必要な日本語力の基礎を構築することである。本学は社会科学系の大学であり、商学、経済学、法学、社会学の各分野に進む留学生を迎えている。このコースの中級以降では学生個々の専門に対応した専門日本語教育の展開が模索されている。

16週間のコース終了後には、それに接続した日本語学習のクラスが「春季・秋季日本語コース」および、学部の科目（「教養教育科目」「学部教育科目」）の中に準備されている。例えば、学習歴をもたずに日本語研修コースに参加した学生の場合、16週間の研修コースの後、3週間の「春季・秋季日本語コース」内の、日本語初級終了レベルに合わせた、中級への橋渡しクラスで学習を継続する。さらに「春季・秋季日本語コース」を修了した本学配置の学生には、次学期に学部の科目内に、そのレベルに合った日本語クラスが用意されており、日本語学習がスムーズに継続されるよう配慮がなされている。

日本語教育のほか、異文化理解・適応に焦点を当てた授業科目として「日本の社会と文化」が98年度から開講され（木曜午後2コマ。97年度は「異文化発見ゼミナール」として開講）、日本の社会と文化を理解するための講義・工場見学・中学校訪問・伝統文化鑑賞など多彩な活動が展開されている。

〈各学期報告〉

① 第十期 （2001年4月コース 2001年4月～2001年9月）

3か国から3名の留学生が参加。1クラス編成。参加者全員が既習者であったため、中級クラスを設定した。

主な教材：『中級日本語』（東京外国語大学留学生日本語教育センター）、『毎日の聞きとり50日 初級編』（宮城ほか）、『Basic Kanji Book 基本漢字500』（Vol. 1、Vol. 2）（加納ほか）、『速読日本のエピソード』（三浦ほか）、『中級から学ぶ日本語』（荒井ほか）

第十期生名簿

氏 名	性別	国 籍	修了後配置先
Janjua, Murad Ashraf	M	パキスタン	商学研究科
Assarut, Nuttapol	M	タイ	商学研究科
Te Soksreng	M	カンボジア	経済学研究科

第十期時間割

		I	II	III	IV	V
月	A	中級文型・語彙 （田中）	中級文型・語彙 （田中）	中級文型・語彙 （西谷）	中級文型・語彙 （西谷）	
	B	----	----	漢字 CAI （石黒）	----	
	C	中級作文 （福岡）	中級作文 （福岡）		文法Ⅱ （庵）	専門日本語（経済 学分野） （庵）
	D	中上級文法 （清水）	中上級文法 （清水）	----	----	
火	A	中級文型・語彙 （田中）	中級文型・語彙 （田中）	中級漢字・聴解 （高橋）／ 中級読解・漢 字（北岡）	中級漢字・聴解 （高橋）／ 中級読解・漢字 （北岡）	
	B	初中級文法 （福岡）	初中級文法 （福岡）	中級前（鶴田）	----	
	C	----	文法Ⅰ（庵）	中級・中（今村） ／中級・後 （三枝）	----	

水	A	中級文型・語彙 (西谷)	中級文型・語彙 (西谷)	---	---	
	B	---	文章表現Ⅰ (三枝)	文章表現入門 (立野)	口頭表現入門 (立野)	
	C	専門日本語(経済 商学分野)(庵) 専門日本語(法学 社会学分野) (石黒)	翻訳(鶴田)	中級読解Ⅰ (清水) / 口頭表現Ⅱ (梅岡)	中級読解Ⅰ (清水) / 口 頭表現Ⅰ(梅 岡)	
木	A	中級文型・語彙 (渡辺)	中級文型・語彙 (渡辺)	日本の社会と文化 (横田・水野)		
	B	---	---			
	C	中級講読(丸谷)	中級講読(丸谷)			
金	A	中級文型・語彙 (田中)	中級文型・語彙 (田中)	中級漢字・聴解 (高橋) / 中級読解・漢字 (北岡)	中級漢字・聴 解(高橋) / 中級読解・漢 字(北岡)	
	B	プレゼンテーショ ン演習(丸谷)	プレゼンテーショ ン演習(丸谷)	中級前(鶴田)	---	
	C			中級・中(今村) / 中級・後(三枝)	---	

② 第十一期 (2001年10月コース 2001年10月～2002年3月)

4か国から7名の留学生が参加、さらに、1名の教官が聴講。2クラス編成。4名を未習者クラス(1クラス)、3名を初中級レベルのクラス(1クラス)に配置した。

主な教材：『初級日本語』(東京外国語大学留学生日本語教育センター)、『留学生のための日本経済』(東京外国語大学留学生日本語教育センター)、『新聞で学ぶ日本語』(水谷ほか)『日本経済』(慶應義塾大学日本語日本文化教育センター)、『読む・聞く ニュースの日本語』(片山)『待遇表現』(アメリカカナダ大学連合日本研究センター)など

第十一期生名簿

氏 名	性別	国 籍	修了後配置先
Harding, Robin Benedict	M	連合王国	経済学研究科
Keizer, Arjan Bernhard	M	オランダ	経済学研究科
Makropoulou, Georgia	F	ギリシア	法学研究科
Staples, Andrew Justin	M	連合王国	社会学研究科
Kwan, Fan Wing*	F	中国（香港）	商学部
Webb, Hilary Kate *	F	連合王国	社会学部
申東虎**	M	韓国	

*交流学生 **経済学研究科助教授

第十一期時間割

		I	II	III	IV
月	A	初級・文型語彙 （田中）	初級・文型語彙 （田中）	初級・会話聴解 （石黒）	初級・文字 （石黒）
	B	初中級・読解 （福岡）	初中級・読解 （福岡）	---	---
火	A	初級・文型語彙 （渡辺）	初級・文型語彙 （渡辺）	初級・会話聴解 （高橋）	初級・文字 （高橋）
	B	初中級・読解 （福岡）	初中級・読解 （福岡）	---	
水	A	初級・文型語彙 （石黒）	初級・文型語彙 （石黒）	---	---
	B	初中級・聴解 （鶴田）	初中級・聴解 （鶴田）	---	---
	C	専門日本語（経済 商学分野）（庵）	専門日本語（経済 商学分野）（庵）	---	---
木	A	初級・文型語彙 （渡辺）	初級・文型語彙 （渡辺）	日本の社会と文化 （横田・水野）	
	B	初中級・読解・語 彙（北岡）	初中級・読解・漢 字（北岡）		
金	A	初級・文型語彙 （田中）	初級・文型語彙 （田中）	初級・会話聴解 （高橋）	初級・文字 （高橋）
	B	初中級・読解・語 彙（北岡）	初中級・読解・漢 字（北岡）	---	---
	C	---	翻訳（鶴田）	---	---

2. 教養教育科目としての日本語科目

教養教育科目として開講される日本語関係科目は広範にわたる。2001年度は、科目数で23、ゼメスター単位の延べコマ数で42コマ（1コマ=90分授業が週に1回で、2単位に相当）になる。以下に各科目の担当者、コマ数、対象、内容、総時間数などを表に記す。

2-1. 日本語・日本事情科目

「日本語A」と「日本語B」は学部1年次の留学生のためのクラスで、「一般日本事情Ⅰ」及び「一般日本事情Ⅱ」は主に学部1・2年次の留学生を対象としている。この4科目が狭義の「日本語・日本事情科目」と呼ばれるものである。

表1：日本語・日本事情科目

科目（担当者）	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語A（松岡、鶴田）	2コマ ／週	学部1年の留学生	社会科学の勉強に必要な日本語能力を総合的に養成。特に教科書等を正確に読みこなし、講義を聞いて理解する訓練をする。	夏学期開講 60時間
日本語B（庵、西谷）	2コマ ／週	上に同じ	「日本語A」に続いて高度な日本語能力を養成する。	冬学期開講 60時間
一般日本事情Ⅰ （松岡）	1コマ ／週	主に学部1、2年の留学生	日本人が常識として知っている歴史上の知識や事柄の中から、話題性のあるもの、日常生活で必要なものを取り上げる。	夏学期開講 30時間
一般日本事情Ⅱ （五味）	1コマ ／週	上に同じ	現代日本に焦点を絞り、現代日本社会の理解に役立つ歴史的な事柄を扱う。	冬学期開講 30時間

2-2. 全留学生対象の日本語科目

次の表2・表3に掲げる科目は、単位取得が可能な正規科目として、交流学生（交流協定校からの1年の短期留学生）、研究生（日本語研修コース修了生を含む）、日本語日本文化研修生（略称「日研生」）、学部1・2年生、大学院正規生など、全カテゴリーの留学生がレベルとニーズにふさわしいものを履修している。

このうち、「日本語中級・前」から「日本語上級・後」の5科目は、レベル別の「基本科目」、それ以外は技能別の「選択科目」である。前者のクラス編成はプレースメント・テストの結果等をもとに行われている。後者は、学習者がそれぞれのニーズによって履修

するものである。2001年度は、「日本語選択・口頭表現入門」「日本語選択・文章表現入門」「経済の日本語Ⅱ」が新設された。なお、2001年度の非常勤講師は、梅岡巳香、清水佳子、立野みどり、中川まち子であった。

表2：基本科目

科目(担当者)	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語中級・前 (鶴田、立野)	4コマ ／週	主に交流 学生、研究 生	教科書に沿って中級前期レベルの 文法・漢字・語彙をマスターし、合 わせて大学生活に必要な会話力や聴 解力を習得する。	夏 120 時間 冬 60 時間
日本語中級・中 (今村)	2コマ ／週	上に同じ	教科書に沿って中級中期レベルの 文法・漢字・語彙をマスターし、視 聴覚教材を利用しながら読解力や聴 解力を向上させる。	夏と冬に並 行開講 各 60 時間
日本語中級・後 (三枝)	2コマ ／週	上に同じ	教科書に沿って中級後期レベルの 文法・漢字・語彙をマスターし、視 聴覚教材を利用しながら読解力や聴 解力を向上させる。	夏と冬に並 行開講 各 60 時間
日本語上級・前 (石黒、五味)	2コマ ／週	上に同じ	教科書やビデオ教材を利用しなが ら上級前半レベルの文法・漢字・語 彙をマスターし、読解力や聴解力を 向上させる。	夏と冬に並 行開講 各 60 時間
日本語上級・後 (西谷)	2コマ ／週	主に交流 学生、研究 生、学部 1、2年生	教科書や新聞、社会科学文献、日本 映画を利用して、上級後半レベルの 文法・漢字・語彙をマスターし、読 解力や聴解力、議論の技術を向上さ せる。	夏と冬に並 行開講 各 60 時間

表 3 : 選択科目

科目(担当者)	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語選択・文章表現Ⅰ (夏:三枝)	1 コマ ／週	主に交流学生、研究生 (中級)	社会科学系の論文を書く際に必要な基本的文型や表現・語彙を習得し、論理的な文章をふさわしい文体で書けるようにする。	夏と冬に並行開講 各 30 時間
日本語選択・文章表現Ⅱ (夏:石黒、冬:松岡)	1 コマ ／週	主に交流学生、研究生、学部1、2年生(上級)	上の練習に加え、説得力ある文章を書くための論文構成の技術を習得するとともに分かりやすく簡潔な要約の訓練をする。	夏と冬に並行開講 各 30 時間
日本語選択・文法Ⅰ (夏:庵、冬:三枝)	1 コマ ／週	主に交流学生、研究生 (中級)	中級レベルの文法力を確実なものにする。	夏と冬に並行開講 各 30 時間
日本語選択・文法Ⅱ (夏:庵、冬:庵)	1 コマ ／週	主に交流学生、研究生 (上級)	中・上級レベルの文法力を確実なものにする。	夏と冬に並行開講 各 30 時間
日本語選択・口頭表現入門(立野)	1 コマ ／週	主に交流学生、研究生 (中級前)	中級前レベルの口頭表現力をつける。	夏学期開講 30 時間
日本語選択・文章表現入門(立野)	1 コマ ／週	主に交流学生、研究生 (中級前)	中級前レベルの口頭表現力をつける。	夏学期開講 30 時間
日本語選択・口頭表現Ⅰ (梅岡)	1 コマ ／週	主に交流学生、研究生 (中級中)	大学生活で自然な日本語が使えるようにする。中級中期レベルの運用能力をつける。	夏と冬に並行開講 各 30 時間
日本語選択・口頭表現Ⅱ (梅岡)	1 コマ ／週	主に交流学生、研究生 (中級後)	大学生活で自然な日本語が使えるようにする。中級後期レベルの運用能力をつける。	夏と冬に並行開講 各 30 時間
日本語選択・中級読解Ⅰ (夏:清水、冬:中川)	1 コマ ／週	主に交流学生、研究生 (中級中)	新聞、雑誌、新書などを材料に、中級中期レベルの基本的読解力をつける。	夏と冬に並行開講 各 30 時間
日本語選択・中級読解Ⅱ (夏:清水、冬:中川)	1 コマ ／週	主に交流学生、研究生 (中級後)	新聞、雑誌、新書などを材料に、中級後期レベルの基本的読解力をつける。	夏と冬に並行開講 各 30 時間

日本語選択・漢字 CAI (夏：石黒、冬：庵)	1コマ ／週	主に交流学生、研究生 (中級)	中級漢字の読み能力を向上させ、日本語ワープロで作文練習をする。	夏と冬に並 行開講 各 30 時間
日本語選択・翻訳(鶴田)	1コマ ／週	交流学生、研 究生、学部 1、 2 年生 (上 級)	主に社会科学系の英語文献を日本語に翻訳する際の技術を習得する。	冬学期開講 30 時間
日本語選択・上級読解Ⅰ (松岡)	1コマ ／週	主に学部 2 年生(上級)	社会・人文科学分野の学術論文を読み、社会・人文科学分野の基本概念に触れる。	夏学期開講 30 時間
日本語選択・上級読解Ⅱ (松岡)	1コマ ／週	主に学部 2 年生(上級)	社会・人文科学分野の学術論文を読み、社会・人文科学分野の基本概念に触れる。	冬学期開講 30 時間
日本語選択・社会科学の 基礎語彙(夏：石黒、 冬：今村)	1 コマ ／週	主に交流学生、研究生 (中級)	社会科学の勉強・研究に必要な基礎語彙をテキストやプリントを用いて学ぶ。	夏と冬に並 行開講 各 30 時間

2－3．学部日本語関係科目（全学生対象）

「現代日本語論Ⅰ」「現代日本語論Ⅱ」「教養ゼミ（法学部夏学期）」「教養ゼミ（法学部冬学期）」「共通ゼミ：日本語・日本語教育」は、留学生を含む、学部生一般を対象とした教養科目であり、「学部ゼミ：現代日本語」は主に日本語日本文化研修生を対象とした科目である。

表 4：学部日本語関係科目（全学生対象）

科目（担当者）	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
現代日本語論Ⅰ (鶴田)	1 コマ ／週	留学生を含む学部 1、2 年生	言語システムそのものではなく言語を人々がどのように使うかに焦点を当てる。	夏学期開講 30 時間
現代日本語論Ⅱ (庵)	1 コマ ／週	上に同じ	一般の学生にも身近な文法現象を取り上げ最新の研究成果とともに紹介する。	冬学期開講 30 時間

教養ゼミ（橋本・三枝）	1 コマ ／週	留学生を含む学部1、2年生	伊藤正巳・加藤一郎編「現代法学入門第三版増訂版」1999 有斐閣を教材に、法律や法律学に関する文章を読みこなす力をつけるための訓練をする。	夏学期開講 30 時間
教養ゼミ（青木・三枝）	1 コマ ／週	上に同じ	「判例で学ぶ日本の法律」（一橋大学留学生センター）をテキストに、法律や法律学に関する文章を読みこなす力をつけるための訓練をする。	冬学期開講 30 時間
共通ゼミ：日本語・日本語教育（今村）	1 コマ ／週	学部3・4年生	外国人に教える視点から現代日本語文法を考える。	通年開講 60 時間
学部ゼミ：現代日本語（松岡）	1 コマ ／週	主に日研生	日本語、日本文化の基本文献を講読する。	通年開講 60 時間

3. 学部教育科目としての日本語科目

学部教育の枠組みでは、経済学部において「経済の日本語ⅠⅡ」（各週1コマ）、社会学部において「社会・人文の日本語Ⅰ」、「社会・人文の日本語Ⅱ」（夏学期・冬学期にそれぞれ週1コマ）が開講されている。いずれも経済学部あるいは社会学部における専門日本語力の向上を図るために開設されているものだが、他学部生も履修することができる。

表5：学部教育科目

科目（担当者）	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
経済の日本語Ⅰ （夏：今村、冬：西谷）	2 コマ ／週	主に経済学部の交流学生、研究生（中級）	経済学を中心とする社会科学の分野で使われる語彙・表現をテキストを用いて学習するほか、日本経済新聞などの記事を講読し、テレビニュースを視聴する。	夏と冬に並行開講 各 60 時間
経済の日本語Ⅱ（五味）	1 コマ ／週	主に経済学部の学部生、交流学生、研究生（上級）	主に経済学の分野で用いられる語彙・表現を学習する。日本語能力試験1級受験レベルの日本語力が望ましい。	夏と冬に並行開講 各 30 時間

社会・人文の日本語Ⅰ（庵）	1 コマ ／週	主に社会学部の交流学生、日研究生、研究生（上級）	社会・人文科学の代表的論文を読み、論文特有の表現を理解し使用できるようにするとともに社会・人文科学分野の基礎概念を習得する。	夏学期開講 30 時間
社会・人文の日本語Ⅱ（河野）	1 コマ ／週	上に同じ	「社会・人文の日本語Ⅰ」の内容をさらに深める。	冬学期開講 30 時間

4. 大学院科目

「経済専門文献日本語」が経済学研究科で、「法言語文化論」が法学研究科で、「専門日本語」と「文化生成論」が社会学研究科で開講されている。

表 6：大学院科目

科目（担当者）	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
経済専門文献日本語 （今村）	1 コマ ／週	主に経済学研究科の修士、博士課程の留学生	経済専門文献日本語の理解における落とし穴に目を向け、言語表現に現れる筆者の視点や立場を読みとる。同時に論文執筆、発表の技術にも触れる。	夏と冬に並行開講 各 30 時間
法言語文化論 （三枝）	1 コマ ／週	主に法学研究科の修士、博士課程の留学生	憲法を一つの手がかりとして、日本人の思想・行動をいくつかの国と比較しながら考える。	夏学期開講 30 時間
総合社会科学専門日本語（松岡）	1 コマ ／週	主に社会学研究科と言語社会研究科の修士、博士課程の留学生	近代の日本語の文章を文法的に正確に読み解く練習を行う。文語文法の基礎と歴史的仮名遣いを概観し『日本近代 思想体系』の文章、あるいは受講生の専門分野から文章を抜粋して読む。	夏学期開講 30 時間

総合社会科学日本事情 (河野)	1 コマ ／週	主に修士 1年生	戦後の日本人論、日本文化論の著作を複数講読し、その内容を自分の身近な問題として検討する。授業参加者に自分なりの「日本人論」を構築してもらう。	夏学期開講 30 時間
文化生成論 (松岡)	1 コマ ／週	主に社会学 研究科と言 語社会研究 科の学生	「日本文法と言語教育思想」の題目の下で、とくに山田孝雄と時枝誠記の主要著作を読み、それぞれの学説の中心をなすものとその影響を、言語教育との関わりにおいて考察する。	冬学期開講 30 時間

5. 補講としての日本語（春季・秋季日本語コース）

正規のカリキュラム外に開講されるもので、単位の認定は行われない。2000 年度は 9 月と 3 月に 3 週間の集中コースが開かれた。対象者は、センターの日本語研修生や渡日直後の交流学生、日本語能力向上を目指す在学生で、そのクラス編成、担当者、内容、使用教材は以下の通り。

表 7：2001 年度秋季日本語コース（2001 年 9 月 4 日～21 日、全 70 時間）担当：今村、石黒

クラス（担当者）	内容・目標	使用教材
A クラス (三角、田中、梅岡)	中級前期学習者の読解力・聴解力・会話力の向上を目指す。	・「日本社会探検」 スリーエーネットワーク
B クラス (高橋淑、熊野、中川)	経済学・商学を専門にする非漢字圏の学生を対象に、読解力・聴解力を中心に中級から上級への橋渡しをする。。	・「日本語上級読解」 アルク
C クラス (太田、高橋美)	経済学・商学を専門にする漢字圏の学生を対象に、読解力・聴解力を中心に中級から上級への橋渡しをする。	・「上級で学ぶ日本語ワークブック」研究社
D クラス (田中、渡辺)	法学・社会学を専門にする学生を対象に、読解力・聴解力を中心に中級から上級への橋渡しをする。	・「中上級日本語教科書日本への招待」東京大学出版会
翻訳クラス (中川、小林)	上級学習者が経済学・商学に関する英文を日本語に翻訳する力を伸ばす。	・各種英文抜粋

なお、同期間中に経済学研究科の主催で「経済学・商学の日本語クラス（上級）」が開かれた。

表8：2001年度春季日本語コース（2002年3月1日～3日、全75時間）担当：三枝、西谷

クラス（担当者）	内容・目標	使用教材
Aクラス （梅岡、三角、北岡）	初級文法・漢字・語彙を確認しながら聴解力の向上を目指し、中級文法へと橋渡しする。	・「J-Bridge（九大試用版）」 九州大学留学生センター ・「Basic Kanji Book Vol.2」 筑波大学留学生教育センター
Bクラス （田中、渡辺）	中級前期学習者の読解力・聴解力・会話力の向上を目指す。	・「日本社会探検」 スリーエーネットワーク
Cクラス （北岡、仲矢）	中級後期～上級前期学習者の読解力・聴解力・会話力の向上を目指す。	・「中上級日本語教科書日本への招待」 東京大学出版会
Dクラス （藤田、中川、土山）	上級学習者の読解力・聴解力・会話力の向上を目指す。ディベートを行う。	・新聞・ビデオ教材等 ・「専門分野の語彙と表現 経済学・商学編」一橋大学経済学研究科
翻訳クラス （中川）	上級学習者が経済学・商学に関する英文を日本語に翻訳する力を伸ばす。	・各種英文抜粋

（鶴田庸子、三枝令子）